

平成28年度 第1回 総合教育会議 会議録	
1 日 時	平成29年3月28日(火) 午後2時～2時50分
2 場 所	201会議室
3 出席者	町 長 加藤 憲郎 総務課長 岡崎 利光 総務課課長補佐 大堀 勝文 委員長 加藤 潤一 職務代理者 高崎 義典 委 員 森 祥子 委 員 大須賀美穂 教育長 佐々木孝司 教育総務課長 佐藤 茂文
総合教育会議 議事次第(司会進行 総務課)	
PART 1	本日の会議の説明(総務課長)
PART 2	町長が今年度の町行政と教育を語る
PART 3	各教育委員からの意見聴取
PART 4	町長からの総括
〔開会時刻：午後2時〕	
大堀課長補佐	<p>予定された時刻となりましたので、ただいまから平成28年度総合教育会議を始めたいと思います。会議の司会を務めさせていただきます総務課の大堀です。よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、はじめにお願いを申し上げます。</p> <p>本日は、議事録作成の関係上、ご発言の際には御氏名を告げていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは本日の総合教育会議の進行について申し上げます。別添次第をご覧ください。そこに記載しておきましたが、本日の会議を4つのPARTによって進めたいと考えます。</p> <p>ご協力をよろしくお願いいたします。それではPART1です。</p> <p>岡崎総務課長よろしくお願いいたします。</p>
岡崎総務課長	<p>平成27年4月1日より教育委員会制度が変わりました。町長が教育委員会を招集して行う平成28年度「総合教育会議」を行います。</p> <p>PART2では「町長が今年度の町行政と教育を語る。」</p> <p>PART3では、各教育委員の皆様から意見聴取させていただきます。その際、今年度を振り返りながら教育委員として、お気づきの点や御意見などをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>最後のPART4では締めくくりとして、町長からのまとめの言葉をお願いいたします。</p>
大堀課長補佐	<p>ありがとうございました。それでは、早速会議に入らせていただきます。</p> <p>加藤町長から今年度の町行政の教育について、お話をいただきます。</p> <p>加藤町長よろしくお願いいたします。</p>

加藤町長

教育委員の先生方には大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。ありがとうございます。

震災から6年が経過しました。町の復旧・復興も目に見えて進んでおります。これも皆様のご協力のおかげだと思っております。国の方では平成28年度から5カ年を、自立を目指す「復興・創生期間」に位置づけ、新たな復興段階へ移行を目指しております。

新地町においては、近い将来のまちづくり設計を明確にしながら、直面する課題と対峙しながら意欲的に取り組んでおります。

今年度は、将来の展望と方向性を示す「新地町第5次総合計画後期基本計画」や「新地町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定して新たなスタートを切りました。JR常磐線も開通し、通勤・通学の利便性の向上、交流人口の増加をともに期待しているところです。

JR新地駅を中心とした「新地駅周辺市街地復興整備事業」をはじめとした魅力あるまちづくりが形を現そうとしていることは嬉しいことです。

教育についてですが、学校教育は勿論、社会教育や文化・スポーツ面、あるいは公民館教室、サークルでの生涯学習に関しましては、現在も積極的に行われていると感じております。

特に学校教育では、新地町の4つの小中学校がそれぞれ学校情報化先進校に認定され、新地町全体が学校情報化教育先進地域に認定されました。

また、文化面では尚英中学校が日産財団の理科教育賞を受賞し、スポーツ面では中体連新人大会で柔道部とバレーボール部が優勝するなど、素晴らしい功績を残してくれました。さらに、新地町がICT地域活性化大賞奨励賞に輝くなど目覚ましい業績を残した一年であったと感じております。

さらに、今月は第2次新地町男女共同参画プランが策定されました。

サブタイトルは「しんち にじいろスマイル プラン」となっております。巻頭言に「人と自然が共にかがやき笑顔あふれる町をめざして」と題して執筆いたしました。去る17日には町内の各家庭に広報誌とともに概要版も配布されたところです。

これら学校教育と社会教育活動をより高め、復興推進と同様に「チームしんち」として、町行政と教育委員会が一丸となり笑顔あふれる町づくりを進めることが大切であると考えております。

さて、昨年度の会議では教育委員の皆様方から貴重なご意見を頂戴いたしました。

加藤委員長さんには、図書館支援員の配置の大切さや母子家庭への支援、高齢者の生涯学習講座の推進のご意見をいただきました。

図書館支援員の塩沼さんと佐伯さんが県教育委員会主催の「子供読書活動支援者育成研修大会」において素晴らしい発表なされたと報告を受けております。子供たちに読書が大切であることは同感です。来年度も継続措置を取っております。

母子家庭への支援ですが、町では給食費を全額負担しております。さらに、学用品費、修学旅行費、新入学費、校外活動費につきましても支援を行っております。

また、3月定例議会での質問にもありました、高齢者向けの生涯学習の機会ですが、サークル活動などについては教室を含め52団体、高齢者を含む591名が年間を通して活動しているとのこと。今後は、高齢者

の皆さんから若者が学ぶ姿勢を啓蒙していきたいと考えております。

高崎委員さんからは、歴史文化についての整備のお話を伺っていただきました。積年の課題であります三貫地貝塚につきましては、早急な対応は難しいと申し上げたところでしたが、農林水産課を中心に地権者説明会を実施し、生い茂っている桑の木の伐採作業をスタートいたしました。また、観海堂の将来の在り方や既に発掘してある縄文土器や文化財の保存や史跡を紹介する場づくりなどについても鋭意検討を加えているところです。

森委員さんには、児童クラブのお話をいただいており、図書館支援員の配置の大切さや安心安全のための学校施設防犯カメラやパトロール活動など教育環境を整えることの重要性、役場の各関係課の横のつながりへの期待される言葉を頂戴しました。まさに、縦割りでない横並びの共通理解を持った行政を推進していきたいと考えております。

また、大須賀委員さんはP T Aの立場として子どもの安心安全を述べられました。原発事故に伴う復興作業に携わっている一部の作業員に、法に触れる事件もあった噂からの通学への不安感も述べられました。このことは、町役場でも情報を共有するなどして注意深く見守っております。

また、登下校の安全強化のための通学路につきましては「新地町通学路安全推進会議」を立ち上げて建設課、町民課、警察署、建設事務所、磐城国道事務所などと危険箇所の現場点検を行い安全確保に尽力しているとの報告を受けております。また、I C T教育環境の整備についての大切さを具体例でお示しいただきました。I C T教育につきましては、各学校がマスコミなどでも大きく取り上げられるなど、新地町が広く知られるようになったことも事実です。先生方も子供たちも自信を持ってきているとの報告もあり、大変嬉しく思っております。

震災後の危機的な状況により、教育面の課題も山積する中で、町長として教育予算の編成、執行に当たっては教育委員会とは密なる連携を図りながら、十分な配慮をしていきたいと考えております。今後も、継続していきたいと思っております。

引き続き、町長として教育委員会とともに、子どもたちは勿論、町民全体に元気と笑顔があふれる町づくり・人づくりを推進してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

大堀課長補佐

ありがとうございました。

それでは、P A R T 3に移ります。教育委員の皆さまからご意見をいただきます。時間の都合上、簡潔にお願いできればと思います。

よろしく願いいたします。

まずは加藤委員長様、よろしく願いいたします。

加藤委員長

常々、教育というのは民主的な能力の基礎が形作られる幼児期から小学生にかけての教育の質、保育の質、家庭環境の問題が大切と捉えております。町長が先ほど震災から6年とおっしゃられましたが、私の近所には避難所生活、仮設生活を経て、小高あたりから移り住まれた方が大勢おりますが、一部には排他的な、あるいはいたわり気遣いが欠落した方もおりますが、区長を中心とする自主的活動で、結びつきや繋がりがあがり、互いに目をかけ、あるいは声をかけたりして注意を向け、犯罪を未然に防ぐ、そういう地域の安全が大変望ましい状況だと思っております。やはり周囲の目が弱

大堀課長補佐	<p>くなると、よからぬ行為への抑制、抵抗も弱くなるので、地域で互いに声を掛け合ったり目を向けたりすることが、ひいては子どもたちの疎外的状況、いじめなどからも予防できるのではないかと特に感じます。</p> <p>私もよく小中学生から声をかけられます。普通は見知らぬ子どもだと目もくれないという雰囲気もあるのですが、新地町は、私だけではなく農家の人たちも温かく見守り支える雰囲気があり、大変うれしく思います。</p> <p>それからもう一つの問題ですが、文化財調査員の配置について、大変感謝しております。先日の歴史講座は参加者70名を予定しておりましたが、80名もの人がいらっしゃいました。相馬の郷土史研究会からは20名、坂元からは5、6名、我々の郷土史会からは15名の参加でしたので、実は新地町には潜在的に知りたい、学びたいということを生き甲斐とする方が大勢いらっしゃるといことになります。私どもの郷土史研究会は、再び学ぶ喜びに再会する場としていろいろな活動を提供しているのですが、シニア世代が知的好奇心を奮わせて勉強しているということ、人間は死ぬまで勉強であり、その気になれば変化したり成長し続けられるということを感じて大変嬉しく思います。</p> <p>要望です。前にも言っていたことですが、歴史資料、観光、文化などの交流センター的な複合施設があればいいと思います。子どもたちのワークショップ、あるいはシニア世代の方々の交流の場など、歴史資料だけではなく多目的な複合施設があればいいなと思います。大変難しいとは思いますが、よろしくお願いします。</p> <p>ありがとうございました。 続きまして高崎委員様、よろしくお願いたします。</p>
大堀課長補佐	<p>高崎委員</p> <p>歴史講座であったように、三貫地貝塚の人骨のDNAからいろいろなことが分かってきているようです。また、新地貝塚でも貴重な史跡が出ていますが、そのことについて、住民の方々、地域の方々は大切さを深く理解していないのではないかと気がします。そのようなわけで、貴重なものの大切さを伝えていきたいという気持ちがありますので、一つ目は委員長さんからありましたように複合型の歴史、地域を学べる施設があればよいと思います。</p> <p>それから、新地町は学制発布前に共立学校ということで、11ヶ村の村々の有志の方々の持ち寄りでのいろいろな資材を出し合って学校を造ったという、建学の精神が福島県で初めての場所でございますので、そのような精神も各校子どもたちに伝えていくため、同じような内容ではございますが、そうやって複合的に学べる場というものが必要ではないかと思ひまして要望ということでお願いしたいと思ひます。</p> <p>ありがとうございました。 続きまして森委員様、よろしくお願いたします。</p>
森委員	<p>町長のお話を聞いた上で、用意してきたものを見ると前にも同じことを言っていたのだと改めて感じたのですが、子どもたちの学習環境といひますか、学習支援、ICT支援員、食育の講演など、とても子どもの環境は忙しすぎるくらい、充実してきたと思われまひます。午前中の教育委員会でも話したのですが、先生方はその分多忙になっているのではないかとこの</p>

とで、そのお手伝いという部分で何か手立てはないものかお話ししたのですが、子どもが充実する分、先生が忙しくなる、先生が忙しくなると目が届かなくなる、そういう循環になってしまっは本来の目的が違うのではないかなと思うところがあります。

来年はアクティブラーニングが学習指導要領の中でたくさん出てくるといことで、調べ学習などの部分で新地町にあるいろんな文化財などを有効に活用していくのは大事なのではないかなと、いつも教育委員会で話し合っておりますので、そのあたりもお願いしたいと思います。

生涯学習の方なのですが、生涯学習フェスティバルを見せていただきますと、継続されている方がたくさんいらっしゃるということで、素晴らしいことだと思っております。ただそこに新しい方が入っていかなければいけませんし、先ほどの高齢の方から若者が学ぶということも大事だと思いますし、やりがいということがすべて介護の予防にもつながっていくことだと思います。介護サポーターとして保健センターでお手伝いしているのですが、やはり高齢者の方の生き生きした姿を見ることで、若者がこうして生きていけるんだなと感じると思いますので、お手本のようなそういう町を創っていただけると若い方も安心して住めるのではないかなということ常々考えております。

広畑の方にもアパートができ、小さいお子さんをお持ちの方が入ったと聞きまして、だんだんと計画が実現されてきているんだと感じています。お願いと言いますか、考えていることは前と同じだとは思いますが、とても環境はよくなってきているのですが、学習支援員やICT支援員など、そういった部分でこれからも継続をよろしくお願いしたいと思います。

大堀課長補佐

ありがとうございました。
続きまして大須賀委員様、よろしくお願いたします。

大須賀委員

森委員がおっしゃったことや前回の要望と重複してしまうところもあるのですが、私の方からはICT支援員のことについてです。今ではもう新地町の特色の一つといってもいいほど大きく成長したICT教育ですが、福田小学校ではARコンテンツを使って図書館施設の案内パンフレットを作ったり、新地小学校では他校間交流をしています。最近では福田小学校のARコンテンツを動画にして他のやり方で取り入れているというのを聞いたことがあります。駒ヶ嶺小学校では自転車旅人の方と高学年がスカイプ交流をしているということです。教育委員になってから他の学校や、ICT使用校の視察も行いましたが、新地町ほどきめ細やかに、多岐にわたって様々なICT機器を使っている学校は珍しいなと実感しています。支援員と先生方のご尽力によって、学習の幅がどんどん広がってきているのが目に見えてわかってきました。子どもを見ていてもそう思います。財政的負担や編成執行等いろいろ大変ではあるとは思いますが、ICT教育がますます新地町の特色の一つとなりますように、力を入れていただきたくICT支援員の継続を今後ともよろしくお願したいと思います。

それからもう一つ先日、松戸市で女兒が誘拐された事件がありました。通学路安全推進会議を設立していただいて本当に感謝しております。連れ去りは起こってはならないことです。それはどこの市町村でもそうなのですが、都市によっては、それが起こってから慌てて集団登校策をとったことを聞いて、起こってからでは遅いと思っております。今回は春休み中の

大堀課長補佐	<p>事件ということでもありますから、学校が始まった時点でそのことについて深く話し合いが行われると思いますが、地形的なものも手を加えることによって解決がなされるものに関して、死角が多い子どもたちの目線からの見直しは、高齢者に対する優しい町づくりにもなってくると思います。ぜひ、今後とも安全推進会議の継続、それから直せるところを直すことが大切に思われます。危険箇所に関わる意見や要望が上がったときは是非お願いしたいと思います。安心安全な町づくりと、ICTを使った魅力的な町づくりというのはこれからの新地町にぜひ必要だと思いますので要望いたします。よろしくお願いします。</p> <p>ありがとうございました。 それでは、最後に佐々木教育長、よろしく願いいたします。</p>
佐々木教育長	<p>今年から道德教育が教科として導入の運びとなることから、その指導が非常に重要になってきます。新地町の場合は教科書を使うこともできますが、直にデジタル映像で見せることもでき、子供の理解を得るための手段、そういった面でのICTの活用は非常に効果的であり有利だと考えております。機器についてはだいたい揃いましたので、これを上手に活用して、できれば学力や知識の幅も広げていきたいと思っております。幸い、小学4～6年、中学1、2年生と、5年間の成績データを点検してみますと、少しずつ上がっています。急に上がることはそんなにあり得ない話ですので、これを崩さないように、徐々にあげていきたいと思っております。</p> <p>人事面では通常は2年以上で異動対象になるのですが、幸い多くの先生方はもう少し勉強させてくださいとのことでした。なぜかといいますと、今の中学校2年生以下からは、今新地町でやっているものを生かした大学入試の問題が作られていく方向にあることを敏感に感じ取っているからだとも推測されます。近い将来、高校で大学を受ける権利のためのテストが導入されまして、テストにある程度の学力を伴わないといけませんので、各市はもちろんですけども、町村でも担当する指導主事を専門に配置し、ICT教育や学力向上に取りかかっているところです。</p> <p>私がとても感謝しているのは、町の行政、議会からのバックアップと保護者や地域社会のみなさんのご理解です。もちろん教職員の教育への使命感と情熱がなければ素晴らしい教育環境はできないということです。ですから、少なくともいただいた恩恵については返さなければならぬと強く感じております。皆さんの期待にお答えできるように、復興なった未来の新地町を担う子どもたちにしっかりと知識を教えて、そして同時に家族はもちろん自然豊かな町のためにも、故郷のためにも、一生懸命がんばる故郷を愛することのできる人間に育てていきたいと思っております。</p> <p>残念なのは家庭内の不祥事といいますか、少数ではございますがそういったご家庭が存在しています。保健福祉課と協力しながら教育総務課と一緒に頑張って対応してまいります。スクールソーシャルワーカーや児童相談所の方、あるいは校長先生教頭先生方にも協力いただいて、解決していかねばならないと考えております。</p>
大堀課長補佐	<p>ありがとうございました。 それでは、PART3を終了させていただきます。</p>

大堀課長補佐	<p>続きまして、PART4に移りたいと思います。 本日の会議の締めくくりといたしまして、町長に感想を交えながら、まとめの言葉をいただきます。</p>
加藤町長	<p>委員の皆様方から町のこと、子どもたちのこと、本当に真剣に考えていただいて改めて嬉しく思いますし、感謝申し上げたいと思います。</p> <p>震災復興から被災者の人たちの生活の再建、これを最優先に行ってまいりました。様々な交通インフラ、生活インフラの方も少しずつ整備が進み、復興もまだ道半ばですが、確実に前進していると思っております。</p> <p>復興再生といった中におりますと、ハード面の方が優先されていきますが、決してソフト面の方を置き去りにしてはおりません。やるべき順序というものがありますので、その辺もご理解いただきたいと思っております。</p> <p>それぞれの委員の方から、町が持っている様々な歴史あるいは史跡、文化、そういうものをしっかりと継承して行ってほしいという声を重く受け止めていかなければならないと思っております。私たちが、この先人たちが残してくれた、我々の誇るべき新地町の歴史、軌跡、また文化を、しっかりと我々が受け継ぎ、次の世代へバトンタッチしていかなければならないと、そういう思いを改めて強くいたしました。</p> <p>子どもたちに新地町の歴史、文化などをしっかり教えるだけではなくて、例えば私がPTA会長だった時の話ですが、親が知らなくては子どもたちに教えることはできない、ということで、よくPTAの研修会としてほかの先進地に視察に出かけていました。しかし、当時は町外から新地へ嫁いできているお母さん方が多く、新地の歴史を具体的には学んでいない方が多くいらっしゃいました。そこで我々親が率先して新地の歴史などを学んで、その上で子どもたちと一緒に学び伝えていける、そんな風になればいいなと思ひまして、外に研修に出るのではなく、町内の歴史文化を学ぶため、あの当時の教育長の目黒美津英さん、あるいは遺跡関係で詳しい方に案内していただく、そんなPTA活動をしていたことを思い出しました。</p> <p>子どもたちも、例えば三貫地貝塚から貴重な人骨とかが出てきている、そういうものをせっかく持っていますので、国でも貴重だとされる文化遺跡をどう伝えるか、どう町民の皆様方に教えていくかとなると、なかなか難しいところもあります。今まで保管する場所も大変だということでしたので、これまで東京大学の方に保管していただいていたので、そして20年くらい前でしょうか、当時の尚英中学校の修学旅行で、新地町で保管している人骨について東京大学に行って先生から講義をいただいて子どもたちが一緒に学んでいました。何年間か中学校3年の修学旅行で東大のコースが入ったこともあります。いつまでも続きませんでしたでしたが、そういうことも貴重な体験だったと思うしております。</p> <p>観海堂の話もありましたが、議会の方からもどうするのか、残した方がいいのでは云々あります。町の復興もだいたい見えてきましたので、皆様の声を聞きながら、今度はそういうソフト面とか、あるいは歴史文化遺跡等についても、どういう保存の仕方、どういう伝え方がいいのかを考えていきたいと思っております。</p> <p>いろんな交流の場をというお話もありましたけれども、駅前の交流センターも設計の段階に入ってきました。新年度中には本設計をし、次のステップに入っていきたいと考えながら、町の方の歴史文化等をしっかりと伝</p>

えたいと思っております。

また、併せて、新地町の3つの小学校、あるいは尚英中学校におけるICTの先導的な取り組みについて、評価していただいて大変嬉しく思っております。先生方も最初は戸惑うのではないかという心配もしていましたが、支援員の配置をしながら、先生方に大きな負担にならないようにとお互いにうまく連携を取り授業がスムーズに進められていると聞き、大変嬉しく思っております。ただやはり人件費というのは大きな負担になりますし、今まで国の支援の補助メニューでやってこられたのが、今度補助メニューがなくなってしまいます。では、町単独で変わらぬ人件費を雇用できるかと言われますと、なかなか難しい面もありますが、町の財政規模と財政の方とうまく見比べながら、なるべく先生方に大きな負担がかからないよう、そしてこの国のモデルとなっている先進的な取り組みを町の誇りとしてしっかり伝えていかなければなりません。教育長の方からもしっかり予算をつけて応援してくださいと言われておりますので、それは支援していきたいと思っております。

それから、子どもたちの安全安心推進会議のお話もいただきましたけれども、年々子どもが少なくなっていますよね。集団登校なんかも、例えば今まで3つほどあったコースが1つになっていたり、町裏に親たちが子どもを送って、そこからみんなで登校していたり、そういう風が変わってきています。そういう面では朝の集団はいいのですが、下校時になると高学年は課外活動を行ったり、あるいは児童クラブに行ったりと、なかなか一緒に下校というのは難しくなってきていると思っております。そういう中で、PTAの声、学校側の声、そして地域の声を聞きながら子どもたちの安全安心な取り組みを町としても考えていかなければと思っております。

でも、うれしいのは、先ほど新地町の子どもたちは挨拶がいいとありましたが、この前言われたのが、LNG関係のジャペックスの人たちが駒ヶ嶺駅で降りてから六万石へ歩いてきているときに、下校中の子どもたちからすれ違いざまに挨拶してもらったと聞きました。

よその人を見たら怪しい人だと思え、学校においても家庭においても余計な声かけするんじゃない、と教えたりするところがあるみたいなのですが、私はかえって挨拶することによって、相手の方に対してとても気持ちいい、とっても素晴らしい好印象を与えてくれると思います。私はそれが新地の良さでもあると思っております。

私も昔、道であった人には福田村に用があつてきたのだからしっかりと挨拶をなさいと、それが当たり前のように親から教えられました。そうして挨拶をすると、学校に行った在校生の人たちから、福田小学校の子どもたちはすごいと褒めていただいて、我々も嬉しかったものです。そういうのが新地町の良さとなっていければいいと思います。安全安心と併せてそういう挨拶ができればいいことなんじゃないかなと思っております。

また、様々な福祉や介護等、細かいご意見も頂きましたけれども、それぞれ担当課と話し合いながら、どんな取り組み、あるいはどんな答えを導きだせるのか、前向きに取り組んでいきたいと思っております。

6年前、大変な震災を受けましたけれども、でも我々の先人がこの地を住処に選んだということはすごいことだな、我々の先人に敬意を表したいと思っております。

福島県の北外れの小さな田舎町ですが、皆さん考えてみてください。常磐線もこうして走っています。常磐道もつながり、一昨日には相馬福島道

路も一部が開通しました。そして港もあり、いろんな交流、物流等のインフラも整っております。そして意外と気付かないのが空港です。すぐ近くにあり、30～40分で空港に行けるということです。ここまで揃っているところはなかなかありません。だから北外れの小さな町ですが、新地町の良さをこれから伸ばしていける、そういうポテンシャルをいっぱい持っている町だなと私は思っております。そういう意味では先人たちがここを残してくれたということはすごいことだなと思いますし、震災がなければ本当に平々凡々として何にもなくていい町だと思いつつ住んでいたかもしれないですが、震災があって、大変な犠牲もはらいました。しかし、震災があったことによって、このピンチをなんとかチャンスに切り替えなくてはならないと思い、この復旧復興はチームしんちで取り組む、それを合い言葉にずっとやってきました。震災があったことによって全国から多くの人たちに来ていただき、新地町を見ていただき、新地町ってこんなに利便性のいい町だと、そこに様々な投資も入ってきました。おかげさまで人口も増えてきております。素晴らしいポテンシャルを持っていますし、今、福島復興創世の時期に入ってきております。このチャンスをしっかりと生かしていかなければいけないと思っております。

それは町の力だけではできません。県なり、国なり、そして全国からいろんな支援員の方々にきていただいて、新地町を見て、そしてその素晴らしい可能性を見て応援していただいているということは、大変すごいことですし、ありがたいと思っております。そういうものを次の世代へ、次の町作りへ活かしていく大切な時期だと思っております。ぜひ委員の皆さんの、これからの町づくりに対する、あるいは人づくりに対するご意見をいただきながら、一緒に取り組んでいただきたい、ご協力いただきたいと思っております。ありがとうございました。

大堀課長補佐

ありがとうございました。

皆さまからご質疑などがなければ、最後に総務課長より事務連絡を申しあげまして「総合教育会議」を閉じさせていただきます。総務課長よろしくをお願いします。

岡崎総務課長

事務連絡を申し上げます。来年度の「総合教育会議」についてです。定例会といたしましては今年度同様に年に1回、10月開催ではいかがかと考えておりますが、今後、担当間で協議して調整してまいります。次回日程につきましては、後日お知らせいたします。本日はありがとうございました。

(14時50分会議終了)